

第4回（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョン有識者懇話会 議事録

テーマ：（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョンとりまとめ（素案）について

テーマ①

「将来像を実現するためのまちづくりの展開について」

テーマ②

「まちの将来像の実現に向けて」

開催日時：令和4年11月17日（木）14時30分～16時30分

開催場所：浦和コミュニティセンター 多目的ホール

出席者（敬称略）

氏名	役職	団体名等
隈 研吾	会長	建築家
安藤 梢		三菱重工浦和レッズレディース選手
市川 淳平		さいたま市浦和商店会連合会 副会長
坂井 貴文		埼玉大学学長
三木 康史		株式会社三越伊勢丹 執行役員 営業本部 伊勢丹浦和店長
鳥羽 三男		東日本旅客鉄道株式会社 浦和駅長
廣瀬 通孝		東京大学名誉教授
向井 亜紀		タレント
安河内 眞美		古美術鑑定士
清水 勇人	座長（司会進行）	

議事録：

司会

皆様、大変お待たせいたしました。只今より第4回（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョン有識者懇話会を開催いたします。本日、司会を務めさせていただきます埼玉県出身のフリーアナウンサー阿部佳乃と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。実は、私の父は、市立浦和高校で長年教鞭を執っておりますですね。私も浦和のまちの発展を心から願っている一人でございます。もしかして市立浦和を卒業された方の中に、もしかして阿部という教員が覚えていらしたら、私の父でございます。どうぞ最後までお付き合いよろしくお願ひいたします。はじめにさいたま市長 清水勇人より開会の挨拶がございます。

市長

皆さんこんにちは、ただいまご紹介をいただきました、さいたま市長の清水勇人でございます。第4回（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョン有識者懇話会の開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げたいと思います。新型コロナウイルス感染症につきましては、若干の増加傾向がみられるなど、第8波への懸念が示されている状況でございます。市民の皆様には、4回目のワクチン接種など早期の対策をお願い申し上げますとともに、本日も必要な対策にご協力をいただきながら、こうして多くの皆様にご参加をいただいたことに対しまして改めて感謝と御礼を申し上げたいと思います。また、隈研吾会長をはじめ、有識者懇話会の委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中ご出席を賜り、厚く御礼を申し上げたいと思います。本日、懇話会委員の皆様には、前回3回目の懇話会でいただきましたご意見、また市民の皆様よりワークショップなどでいただきましたご意見を踏まえ、市で検討を重ねましてブラッシュアップをいたしました、まちづくりの展開や将来像の実現につきまして、さまざまなお意見を頂戴したいと思っております。（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョンは、本日の第4回目の懇話会の意見を反映させていただき、12月には素案としてパブリックコメントを実施し、令和5年3月の策定を予定しております。本懇話会につきましては、ビジョンの策定を目的としておりますので、本日はこれまでの集大成として委員の皆様へビジョンへ込める浦和への思いをいただければと思っております。傍聴の皆様、また市民の皆様にもぜひアンケートに御協力をいただきまして、一緒に（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョンをつくり上げていきたいと思っております。それでは、本日もどうぞよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

司会

清水市長ありがとうございます。それでは、有識者懇話会の委員の皆様をご紹介します。

会長は建築家の隈研吾様、続きまして、さいたま市浦和商店会連合会 副会長の市川淳平様、東日本旅客鉄道株式会社 浦和駅長の鳥羽三男様、東京大学名誉教授の廣瀬通孝様、株式会

社三越伊勢丹 執行役員 営業本部伊勢丹浦和店長の三木康史様、タレントの向井亜紀様、古美術鑑定士の安河内眞美様です。なお、埼玉大学学長の坂井貴文様と三菱重工浦和レッズレディース選手の安藤梢様はご都合により本日はご欠席となっております。それでは、委員の皆様、どうぞご登壇ください。

そしてここからは座長であります、清水市長に進行をお願いいたします。それでは、どうぞよろしくをお願いいたします。

市長

それでは、私の方で暫時進行を務めさせていただきたいと思っております。さいたま市長の清水勇人でございます。第4回浦和駅周辺まちづくりビジョンのですね有識者会議の会議ということで、只今から開催をスタートさせていただきたいと思っております。それでは、まずスクリーンを使用しながらですね。ビジョンを見せていただいて、私の方から少しご紹介をさせていただきます。

まず、第3回目の懇話会では、まちづくりビジョンの取りまとめを素案としまして、まちづくりの将来像とまちづくりの方針、また、将来の生活シーンについてご意見をいただきました。今回はこれまでいただきましたご意見をもとにして検討を進めてまいりました将来像を実現するためのまちづくりの展開、また、まちの将来像の実現に向けてという2つのテーマについて説明をさせていただき、ご意見をいただきたいというふうに思います。

第3回目の有識者懇話会や浦和の活動家の皆様による意見交換、また、市民ワークショップなどによりまして将来の浦和で実現したい生活シーンについて広く意見を伺ってまいりました。頂戴したご意見をもとに、市民の皆様のイメージや感覚にマッチした浦和らしいまちづくりの展開や将来の生活シーンを、まちの魅力や地域資源を最大限に活かしてわかりやすく表現したいと考えております。

それでは、テーマ①まちづくりの展開からご説明をいたします。前回もお示しし、ご意見を伺ってまいりましたが、本ビジョンにおける浦和の魅力、また価値をさらに高めていくまちづくりの展開をご覧の4つとしております。本日は、この展開ごとに目的や取り組み内容、そして具体的なゾーニングや軸線などの設定と将来像を実現した生活シーンを順にご説明をしていきたいと思っております。

まず展開の1でございませけれども、「浦和の文化・教育・スポーツを日常で体感し楽しめる場の創出」についてでございます。目的としましては、人生100年時代において生涯楽しみ続けられる環境や、市民や来街者がまちなかで体感できる仕組みや、仕掛けを構築し、地域の活性化や市民生活の充実を目指してまいります。ご覧いただいております展開ごとに、まちの魅力や地域資源を最大限に活かすための概ねの区域、ゾーンなどを設定いたしました。展開の1ではスポーツ文化振興ゾーンといたしまして、浦和駒場スタジアムや浦和総合運動公園などのスポーツ施設と浦和駅、北浦和駅を包含するエリアを設定いたしました。

た。文化芸術保全活用ゾーンとしましては、県立近代美術館、北浦和公園や浦和美術館、埼玉会館、別所沼公園を中心としたエリアを設定いたしました。浦和の教育・歴史・文化を象徴する高砂小学校、中山道を包含するエリアを歴史文化保全活用ゾーンとして設定しました。次に、それぞれのゾーンにおける取り組みを説明したいと思います。スポーツ文化振興ゾーンでは、多彩なスポーツをする・見る・支える・学べる環境の整備やスポーツ施設の建替え更新と合わせた新たな機能、価値の導入、また、グローバルな環境整備に取り組んでまいります。文化芸術保全活用ゾーンでは、浦和絵描きなどの文化芸術資源を知る、見る・学べる・体験できる環境の整備に取り組んでまいります。歴史文化保全活用ゾーンでは、中山道などの歴史文化資源を知る、見る・学べる・体験する環境の整備やグローバルに活躍できる力を育成する新しい時代の学びの実現に取り組んでまいります。これまで、有識者懇話会やワークショップなどで将来の浦和で実現したい生活シーンを伺ってきました。そこでの意見をもとに、まちづくりの展開が進んで実現できるであろうということを将来イメージとして表現いたしました。スポーツ文化振興ゾーンでは、スポーツ科学等を取り入れるなど、さまざまな人の支援や協力を得てサッカーに取り組むうちにスポーツを支える仕事にも興味を持っています。また文化芸術保全活用ゾーンでは、なにげない日常の散歩道でアート作品などに触れることができます。

次に展開の2「県都、都心にふさわしい風格ある街の再構築」についてでございます。目的としましては、環境エネルギー性能の効率化や防災安全性の確保、緑、景観との調和や新技術の積極活用等、複合的な都市機能を備えた質の高い環境整備を目指しています。展開2のゾーンなどの設定についてでございますが、風格ある県都創造ゾーンとしましては、県都を象徴する埼玉県庁や市役所現庁舎など行政施設の集積エリアを設定しました。駅前再構築ゾーンとしましては、まちの玄関口であります、浦和駅を中心としたエリアを設定いたしました。風格あるまちなみ形成軸として、浦和駅と埼玉県庁を結ぶ風格ある通りを軸として設定し、取り組みを展開してまいります。風格ある県都創造ゾーンでは、公共施設の建替え等に合わせました都市機能の再編・適正配置や環境エネルギーや防災機能等に配慮した施設の整備に取り組んでまいります。駅前再構築ゾーンでは、環境・エネルギーや防災機能等に配慮した商業施設等の建替え促進や、県都・都心としての防災機能の強化、また、土地の高度利用化とあわせまして、都市機能の複合に取り組んでまいります。風格あるまちなみ形成軸としまして、県都・都心として賑わいや落ち着き、風格を感じるまちなみの景観の形成に取り組んでまいります。風格ある県都創造ゾーンでは、夢のある若者へのサポートをしている方が、自分のスキルを伝承できる実証実験を行うことで、浦和のまちの経済が循環し、浦和が豊かになっていることにやりがいを感じています。また、駅前再構築ゾーンでは、浦和のまちの利便性と県庁前の通りなど雰囲気の良いまちなみに惹かれて移り住む人が増えています。

次に展開の 3、「浦和らしい多様なライフスタイルを実現できる居住環境の形成」でございます。目的として、

浦和のまちで多様なライフスタイルを実現できるよう、官民によるサービスを利用しながら活動・交流の場づくりやコミュニティ形成の機会づくりに取り組み、自分らしい生き生きとしたライフスタイルの実現を目指します。展開 3 のゾーン設定では、都心居住、商業・商店街ゾーンとしまして、「浦和駅前」の商業施設や商店街、「埼玉県庁」などの行政施設が集積するエリアを設定いたしました。その外側、北浦和駅周辺の生活利便性の高いエリアを利便性重視ライフスタイルゾーン、さらにその外側、別所沼公園や駒場緑地を含むエリアを快適性重視ライフスタイルゾーンとして設定し、取り組みを展開してまいります。快適性重視ライフスタイルゾーンでは、自然を近くに感じながら、生活利便性、コミュニティなどバランスの良い高質な住環境の維持・形成に取り組んでまいります。また、利便性重視ライフスタイルゾーンでは、買い物や娯楽等の様々なサービスが利用しやすく、利便性に優れた居住環境の形成に取り組んでまいります。都心居住、商業・商店街ゾーンでは、歴史を感じるまち並みや界隈性のあるヒューマンスケールな通りを活かした商業環境の形成と保全や、浦和の人や来街者にとって居心地の良いウォーカブルな環境の創出、また、浦和の人や来街者で賑わう商店街等の活性化に取り組んでまいります。

快適性重視ライフスタイルゾーンでは、別所沼公園などで水や緑など身近な自然を感じながら散歩をするなど、ゆっくりと快適に過ごしています。利便性重視ライフスタイルゾーンでは、駅前の送迎保育ステーションを利用して子どもを保育園に送り、まちの雑踏を感じられるカフェでテレワークに取り組んでいます。

最後は展開の 4、「誰もが安全・安心、快適に移動できるネットワークの強化」です。目的は、点在する地域資源のネットワーク化を図るとともに、目的や利用者に応じた最適な移動手段の確保を図り、誰もが安全・安心、快適に活動・交流できる移動環境の形成を図るものでございます。展開 4 におけるゾーンなどの設定につきましては、浦和駅、北浦和駅からおおむね 500 メートルのエリアをウォーカブル空間創出ゾーンとして設定いたしました。そして、そのゾーンと地域の緑地資源であります駒場緑地、別所沼公園をつなぐ、通りや遊歩道を回遊ネットワークとして設定いたしました。回遊ネットワークとしましては、地域の緑地資源を結ぶ緑のネットワークの形成、グリーンインフラの推進や、高齢者や障害のある方なども誰もが移動しやすい交通環境、またサービスの提供に取り組んでまいります。ウォーカブル空間創出ゾーンでは、居心地の良いウォーカブルなまちなか環境の創出、また、浦和のまちを快適に移動できる歩行者ネットワークなどの形成や、自転車走行環境の形成、またバリアフリー化の推進、主要な公共施設等における小型モビリティポートの整備に取り組んでまいります。回遊ネットワークでは、毎日、駒場緑地までの歩きやすく安全な緑道でウォーキングをし、途中にベンチなどで気軽に休める環境があることで、安心して体力づくりに取り組んでいます。ウォーカブル空間創出ゾーンでは、さくら草通り周辺のナイトマルシ

ェに立ち寄り、偶然出会った浦和のまちの人との交流によって、人とのつながりが新しく生まれています。

それでは、今ビジョン 1 についてご説明をさせていただきましたけれども、これらについて委員の皆様からご意見を伺っていきたいというふうに思っております。

それでは、まず、本日は残念ながら会場にお越しをいただけませんでした。坂井委員の方から事前にこのご意見を伺っておりますので、このスクリーンをご覧くださいと思います。

坂井委員

埼玉大学の坂井でございます。今回の提言の中に、まちづくりの展開としてゾーンや軸を設定したのは大変わかりやすいと思えました。ただ、まちづくりの方針の中にキーワードとしてサステナブルサイクル、これは人の成長を支える環境の仕組みというものが挙げられておられます。このサステナブルサイクルには、学ぶことが重要なポイントになっていると思いますし、欠かせないものだと思います。方針の中には残念ながらこの学びという観点が若干見えにくくなっているようにも感じます。また、展開 1 各ゾーン共通の取り組みにも、グローバルに活躍できる力を育成する新しい時代の学びの実現とあります。やはり、こここのところを見ても、学びの内容を具体的にもう少し織り込んだ方がよいと思っております。学びということで考えていきますと、一つは趣味のための教養講座というのが考えられると思いますし、また仕事のスキルアップにつながるようなリスキリング、リカレント教育というものがあると思います。これらのことをもう少し組み込んでいけるとよいと思っております。また、今回ゾーンというものを設定されているわけですが、歴史文化保全活用ゾーン、文化芸術保全活用ゾーンというのがあります。これは浦和ブランドの原点とも言える歴史を学び、保全することになります。これは浦和プライドの発展にもつながり、極めて大切な点であろうと思います。しかしながら、一方で、このように過去を理解して学ぶだけでなく、今の生活において未来に向けて先ほど申し上げたように新たなことを学ぶ必要性を明示的に加えることも大事なことだろうというふうに思っております。例えば、未来に向けた学びのエリアというものを、さいたま市役所の周辺、また、北浦和公園周辺を中心に設定するというのも考えられるのではないのでしょうか。ここはかつて埼玉師範学校、旧制浦和高等学校があった場所ですので、歴史的に見ても学びとの親和性は高いと思います。

市長

はい坂井委員からのご意見でございました。ありがとうございました。

それでは続きまして、前回の懇話会では、中山道という財産を活かした歩いて楽しい道の整備、あるいは子どもたちが芸術に触れる経験の重要性についてご発言をいただきました安

河内委員にご意見を伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

安河内委員

ありがとうございます。歴史的に非常に由緒のあると言うんですか、古いまちを持っている浦和のまちを未来に続けていくために2つのことを申し上げたいと思います。一つは緑のある道づくりをされているということなんですけれども、それをさらに充実させて中山道を起点として、江戸時代あるいは明治時代からの町名というんでしょうか、そのまちの由来なんかを感じさせるそういうものを掘り起こして、その由来を保存あるいはこうしっかり伝えていくことで、まちの歴史やつながり、そういうものが見えてきたりするのではないかなと思っています。住み良いまちであるとともに、奥行きのあるまち、歴史を大切にして歴史とともにあるまちというのを作っていったら、魅力的なまちに繋がっていくのではないかと。私自身やっておりますので、はっきり言えないんですけれども、ポケモンGOみたいなそういうバーチャルのもので浦和のまちを探検とか探っていくと子どもたちにも歴史を探ってもらい、そういう遊びの要素のあるものがあつたら、面白いのかなという気もいたしました。もう一つがスポーツの盛んなまちづくりということで、私自身の経験からお話をさせていただきますと還暦の時にですね、一つでもコンプレックスをなくそうと思って水泳ができなかったものですから泳ぎを習得したいということで、住んでいる地域の区の主催の水泳教室に仕事終わりで参加いたしまして、小学校のプールが会場だったんですが、小学校っていうのはまちの中であつてとても行きやすかつたんですね。人数も2、30人の方が応募してもう満員になっていましたけれども、そこで息継ぎができるようになりというふうなことで、今もプールとか水泳は続けております。その後も小学校のプールっていうのは夜も開放されておりますので、時々泳ぎに行ったりということをしております。浦和のまちづくりの一環として、スポーツ施設の建替えとか更新といった項目があつたように思うんですけれども、学校の施設を時間によって地域住民も使えるようになると利便性もいいですし、子どもたちが使わない期間、大人が使うみたいなことができるのではないのかなと思います。ニュースで学校の課外活動や運動をスポーツクラブや専門家に任せるといった案も、最近見るんですけれども、人材といったソフト面、あるいはプールや体育館といったハード面、そういったものをフルに活用していく、学校と地域がお互いに活用していけたらいいのではないのかなと思います。学校に見知らぬ大人の人が入ってくるのは非常に抵抗があると思うので、そこは慎重にしないでほしいと思いますけれども、まずそういうところは何て言うんでしょう、帰ってくる大人のための教育で、ハード面ではその住み分けということをして活用していくといいのかなと。私自身、これからの人生をどこで過ごすかと考えた場合、今はプールがそばにあるところがいいというような条件で探したりもしますので、そういう水泳に限らず、ボール遊びとかいろんな分野をお互いに活用していけたら有効なことができるのではないかなと思っています。

市長

はいありがとうございます。続きまして、本日は残念ながら会場にお越しいただけませんでしたが、安藤委員からも事前にご意見をいただいておりますので、安藤委員からのご意見をお伺いしたいと思います。それでは、スクリーンをご覧ください。

安藤委員

三菱重工浦和レッズレディースの安藤梢です。まず、私たちのホームスタジアムである駒場スタジアムがこのゾーンに入っているっていうことをとてもいいなと感じています。レッズレディースが女子サッカーを通して女性活躍っていうのを目指しているので、このスタジアムから私たちが元気を送っていける場所にしていきたいと思っています。スタジアムのもっともっと来てくれたファンやサポーターの方とか、アウェーのチームの選手も来たりとかするので、来た時にやっぱりこの浦和の駒場スタジアムって格好いいなとかすごいなって、また来たいなと思ってもらえるようなスタジアムになっていくといいなと思っています。例えば、海外でドイツでいろんなスタジアムに試合見に行ったんですけど、もっとシートがふかふかなシートがあったり、寒い時にヒーターが付いたりとかっていう、そういうVIPな席もあったりとか、海外のVIPルームは、そこで何かこう人が集まって、サッカーを見ながらコミュニケーションを取るみたいな場所になっててすごい広がってて、食事とかビールも飲みながらっていう場所になってるので、そういったところも人が集まってコミュニケーションが取れるような場所にスタジアムもなっていくといいなと思います。スタジアムまでの道のりで、これも自分が海外でこうスタジアムに行く時の経験なんですけど、いろんなところにスポーツバーがあったり、人が集まってビール飲んだり食事したりとかする場所がすごいあって、スタジアムに行くまでの間にそこで知り合ったファンサポーターが仲良くなって一緒に応援しに行くっていう、すごく盛り上がりながら行ける場所がたくさんあったりしたので、そういった場所がスタジアムに行くまでに、もっともっとできるといいのかなと思います。これまでは、私たちレッズレディースはよく幼稚園生とか小学生とかに向けてサッカースクールをしたり、自分の夢を語ったりとかっていう夢先生みたいなこともやってたりっていう活動を多くやってきてるんですけど、そういったことをもっともっと広げていきたいなっていうことと、同世代の人達にもサッカースクールをやったりとか、高齢者の方にもサッカースクールとか私たちがやっているウォーミングアップみたいなことを高齢者の方に伝えたりとかっていうのもやっていけたらなと考えてます。今、私は筑波大学でサッカーの日本と世界の差をデータ化して研究してるんですけど、海外ではすごくその選手の動きだったり、例えば速攻の速度だったり、そういったものをデータ化するというのがすごい進んでいて、マンチェスターシティとかビッグクラブになると、スタジアムの外にそういった選手のデータ化されたものが見れるような掲示板があったりとかして、そういったものがすごい進んでいるので、今後日本でも駒場スタジアムでもそういった選手のデータ化されたものを一般の方たちも見られるようなシステムというか、そういう

ものがどんどん発達していくといいなと思ってます。スタジアムだけじゃなくても、サッカーとかいろんな他のスポーツでも、もっとこうデータ化していくっていうことは、これからすごい大切だと思いますし、それを知ること一般の方たちも、その選手のデータを目指してスポーツに取り組みたりできるかなと思いますし、そういったスポーツを研究していくっていう方も増えていくと、すごくいいのかなと思います。

市長

安藤委員からのご意見でした。ありがとうございました。

続きまして、前回の懇話会では鉄道やバス自転車などが効果的に連携したまちづくりや災害時の駅と周辺施設の連携の重要性などについてご発言をいただきました、鳥羽委員にご意見をお伺いしたいと思います。お願いします。

鳥羽委員

駅の役割がですね、10 数年前とすごく大きくだんだんと進化して変わっていってます。ただ列車を乗る場所ではなく、その地域との連携をしっかりとつなげるということを重視して、今、駅は変わっております。少しスクリーンの方を見ていただきたいと思います。

(映像投影)

地域を元気にするために、このつながる取り組みというものを駅からですね、今発信をしているところでございます。つまり、この駅周辺からのまちづくり全体を語る上でですね、とても今重要なと思ひまして、ちょっと紹介いたしました。先ほどのゾーンで言いますと駅前の再構築ゾーンのためには、まずは駅の東西自由通路の整備、そして駅前広場ですね。そしてゆとりある空間が連携するということをぜひイメージしていただきたいと考えております。そこをつなぐウォークアブルな空間創造ゾーンですね。そこにもあるんですが、歩いて楽しいストーリーがあってゆとりある歩行者空間、そこでですね、ウォークアブルに歩いて楽しめる小道がある。また、そのサインバリアフリーの向上ということで、医療だとかチケットの予約がスイッと提供がスムーズに何か取れるような場所が人に優しいのかなと考えております。また、新たなモビリティの活用として、誰もが快適に移動できるネットワークの強化そういったことで、シームレスですね、何かつながりが不便ではなくて、スムーズに行くようなシームレスなつながりで、前も言いましたように、自家用車がなくても、浦和のまちは移動がしやすいというような道をつくっていただきたいと考えております。また、風格ある県都創造ゾーンということを先ほど紹介されましたけれど、災害時における帰宅困難者ですね。この受け入れの体制、またはその備蓄であったり、通信、電力、電源の供給施設の充実によって災害に強いまち、または安全、そして安心なまちが駅周辺まちづくりの基盤となってほしいと考えております。以上になります。

市長

鳥羽委員ありがとうございました。動画も使って大変分かりやすく説明していただきました。ありがとうございました。続きまして、前回の懇話会では、浦和のスポーツや文教都市といった魅力をアップデートすることの重要性、また、商業施設として浦和の方々と一緒に発展していきたい旨ご発言をいただきました三木委員からご意見を伺いたいと思います。よろしく願いいたします。

三木委員

はい、伊勢丹浦和店 三木でございます。よろしく願いいたします。

今回のビジョンで取りまとめていただきました、4つの展開。これ非常にわかりやすく整理していただいたなというふうに思っております。その中でですね、この展開よく見させていただいた時に、やはりこの軸になるものといいますか、まちづくりの中心になるものっていうのは、やっぱり人なんだなという風に再度改めて認識をいたしました。といいますのもですね、我々は百貨店ということで、伊勢丹、浦和の地でですね40年商売をさせていただいています。今我々、特に三越伊勢丹、当社グループはですね、特に新宿なんかは1日7万人10万人入る、東京ディズニーランドと同じぐらい1日入るお店ですけれども、そういったお店でもですね、もう一度ですね、お客様を個で捉えて、どうやって、そのお客様にパーソナルな価値提供ができるかというこの小売の原点に戻り始めています。それをですね、どうやって実現するかっていう時に使うものがDX、お客さまのデータであったり、アプリといったITツールを活用しながら今一度、この個というですね、お客様一人一人に価値を見いだしながらどうやって価値提供するかということ、これは伊勢丹浦和店も含めて今全社を挙げて取り組み出しています。そういったことを引きつけて考えますと、この展開の中で一番中心になる人っていうのは、どういった人にこの浦和の価値っていうのを提供したいんだろうと。当然ながらこの前もお話しさせていただいた浦和に住んでいる方っていうのは、やはり生活、上質なですね生活スタイルを営まれる方、こういった方が中心になっている方々に対して、この浦和のまちとしてどういう価値をこの展開の中で提供していくのか。またですね我々は商業でございますので、浦和に来られる方、どういった方に来て欲しいんだろうと、その人たちに対して必要な提供価値っていうのは何なんだろう、今一度ですねこの4つの展開の中で、そういった人っていう観点から求められるもの、また、浦和の持っているレガシー、独自性みたいなものを掛け合わせた中で、今一度を付け加えられる価値は何なんだろうっていう視点もですね取り入れていただくといいのかなというふうに思います。そういった中でですね、若干坂井委員も触れられていましたけれども、この浦和のまちを発展させていく、進化、発展させていくっていう視点がですね、もうちょっと加わってくるとですね、さらに50年100年持続的に成長する、どういうふうに成長していきたいのかという、浦和のまちづくりのビジョンというのが描けてくるのかなというふうにも思いますので、伊勢丹浦和店という商業の一つの核としてですね、このビジョンと連携をしながら我々も取り組みを進めさせていただければというふうに思っております。以上でございます。

市長

三木委員ありがとうございました。それでは続きまして、前回の懇話会では、駅前広場や県庁通りのリ・デザインについて具体例などを挙げていただくとともに、水路の歩道整備による緑のネットワーク化についてご発言をいただきました、市川委員にご意見を頂戴したいと思います。よろしくお願いします。

市川委員

地元、浦和商店会連合会 副会長の市川です。私からは2項目に分けてお話をさせていただきます。

最初に展開2の県都・都心にふさわしい風格のあるまちの再構築についてです。前回の懇話会で私は今後、浦和は県都としてのイメージを強めていっても良いのではないかと。そのためには、人々の集う歩行者空間である駅前広場を整備し、広場を基点として県庁通り沿道その一帯をウォークブルに再整備し、そして建て替えられて風格ある埼玉県新庁舎につなげていくということを申し上げました。これはまちづくりの展開として、今回風格あるまちなみ形成軸と位置づけられたようですが、すでに沿道に威厳と風格を放っている建物があります。埼玉会館です。ルコルビュジェの弟子と言われる前川國男氏の設計で、文化歴史的な要素もある埼玉会館をぜひとも風格ある県庁通りの基軸に据えてほしいと思います。ただ、県庁舎の再整備について、先月18日の朝日新聞の記事によると、大野埼玉県知事はインタビューにこう答えています。《県民への公共サービスがオンライン化したり、自治体職員の働き方が変化したりする中で、どこにどんな県庁舎を作るかは、実は根底から問われている。県庁舎としての必要な規模や機能が変わるだけでなく、将来的には県庁所在地という意味が変わる可能性があると考えている。》埼玉会館も県庁舎も埼玉県の施設です。埼玉県の動向を注視し、時に協力して風格あるまちなみ形成軸づくりを行って頂きたいと思います。なお、さいたま市本庁舎移転後の敷地利用について懇話会では触れませんでしたでしたが、移転が決まったばかりであり、住民の跡地利用に対する関心がさらに高まるのを待ちたいと思います。

次に、展開3、浦和らしい多様なライフスタイルを実現できる居住環境についてです。個別補足的な話となっていくのですが、浦和駅西口住民の日常ショッピングで親しまれているイトーヨーカドー浦和店は築50年近くになっています。一時ですね地元有志を中心に、北側の浦和パーキングと一体再開発を計画する動きもあったようですが、その後立ち消えになっています。ヨーカドー側の単独建て替え事業となるのか、それとも周辺開発となっているのか。都心居住、商業・商店街ゾーンの中の今後の課題かと思います。

次に、北浦和駅周辺についてです。私は不動産業者なので、その物件は駅徒歩何分かという職業病的な基準を持っています。それだけ駅は重要でポテンシャルの高い施設だと考えています。付近には、埼玉メディカルセンターや水辺のある北浦和公園があり、また駅の東西

には浦和駅周辺ではあまり見られなくなった、昔懐かしい商店街の佇まいも残っています。商店街の存続活性化のためにも、北浦和駅周辺を商業商店街ゾーンへの位置づけとして検討してほしいところです。駅のポテンシャルを生かし、市営北浦和パーキング跡地などの周辺整備によってもより良いエリアになると思います。私からは以上です。

市長

市川委員ありがとうございます。続きまして、前回の懇話会では人と人のつながりの先にありますデジタルのつながりがもたらす持続可能な関係や、浦和の持つ優いつながりを大切にすることの重要性についてご発言をいただきました。向井委員にご意見を伺いたいと思います。向井委員よろしく申し上げます。

向井委員

よろしく申し上げます。こないだの土曜日、別所に友達と集まって飲みました。私、今日ショッピングピンクのブラウスを着て張り切ってきましたけれども、58になりました。同級生みんな58歳です。私は浦和第一女子なんですけど、浦和高校、浦和西、浦和市立、大宮高校みたいなね。友達とずらっとこの学区のお友達と集まって、お友達のおうちが倉庫を持っていて、そこをちょっと開けて半分こう屋外と繋がりながら7、8人でしゃべりました。そこですごく盛り上がったのは、私たち65歳ぐらいから年金もらえるかもしれないけれども、そこから先の人生長いよね、元気に長生きしようねっていう話をしたんですね。早期退職しているお友達もいて、私たち、この年代はよれよれしている部分もありますけれども、まだ色々な夢を持っているし、やる気もあるし、自分たちが生まれ育ってきた地域に何が出来るかなっていう、そういうアイデアをいっぱい持っていて、もうお酒が進むんですね。これはできないか。あいつにこれを頼めばあいつだ、こういうことをやってくれるじゃあ、そこに向井が行って向井がMCやれよみたいな感じで、いいよ出来る出来るっていう話をして、私たちの世代っていうのがもっともっと地域に恩返しをするチャンスをとくさん浦和は持っていてほしいなと思いました。

また、本当に鳥羽さんびっくりしました。浦和、私、そうですね。だから大昔40年前までは浦和で高校生をやっていたけれども、あの時から比べて何て集まりやすいまちになったんでしょう。本当に浦和にこれだけたくさん駅があるので、さっきのようなイベントもそれぞれの浦和がついている駅の駅長さんが集まって、もうおらが、おらがっていうのは申し訳ないんですけど、うちの駅のこんなところを見てくれっていうんで、浦和はね、やっぱり日本一たくさん駅を持っているっていうことなんで、浦和はこんなに駅を持っていて、こんなに集まりやすくてこんなに素敵なまちなんだっていうのをね、もっと発信してほしいななんてみんな言いました。帰りも浦和に行く人、武蔵浦和の人、じゃ俺達どっちに行こうか、もうちょっと歩いてちょうど気持ちいい季節だから、もっと違う駅から行こう、なんという話で本当に盛り上がって、こんなに集まりやすいところでこんなに地元愛にあふれ

た中年がたくさんいて私たちが持っているいろんな人脈とか、いろんなアイデアとか自分たちが今まで仕事の中で培ってきた、いろんな何て言うんでしょう、つてとかモノとかお金とかっていうのを活かしていけたらいいねっていう話ができ、これぞ浦和の強みだなそう思ったんですね。

私なんかはですね、子どもたちにアマチュアレスリングを教える高田道場っていうのにちょっと噛んでいるんですね。旦那が、高田道場の社長をしている関係で、子どもたちに何を教えようっていう体育とかレスリングとか心の持ち方、そういうのを教えている高田道場っていうのもやっているんですけど、よく考えてみたら、浦和美園から電車 1 本でその道場がある武蔵小山、ムサコって言うんですけども、武蔵小山まで通ってきている子もいたりして、浦和ってどこまでも伸びていける可能性すごく持っているのもっとそこら辺をこう強調しながら浦和集まりやすいよ、浦和面白いよ、浦和パワー溢れているよ、浦和学校たくさんあるから学校たくさんある分、その卒業生たちのネットワークすごいよっていうのを大事にしていけたら面白いなと思いました。私たちの、あ、ありがとうございます。あの私たちの親の世代もう 80 歳の世代ですけれども、あそこのお母さん元気だよ。元気の秘訣をみんなで聞かないとか、ちょっと心もとないところが出てきたからじゃ、湯沢医院の跡地にあるあその施設はどうなの、あそこになんとか君と何とかちゃんのお母さんが行ってるよっていう、そのネットワークもすごいですし、自分達の娘、息子世代が今ちょうど結婚したり、ベビちゃんができてさあ、これからお仕事と仕事をどう両立しようさせようっていう風にちょうど考えてる世代なので、私たち接着剤になれます。本当にこれから 30 年ぐらいが第 2 の人生として面白いことできるんじゃないか。そうやって燃えている世代なので、ぜひ使ってほしいなと思います。私たちがおじいちゃまおばあちゃまの昭和の良さを、これからの人たちに伝えていく役割できると思うんですね。私たちが高校時代、学校の先生すごかったです。妖怪みたいな先生がいて、水谷先生って言うんですけど、みんなに水バアと呼ばれていて、なぎなたを持っているんです。もんべを履いてるんです。お掃除をサボると、そのなぎなたを振りかざして追いかけてくるんですね。そういう先生がいたからこそ、何て言うんでしょう、みんなでキャーキャー言いながらも、あの先生の元気の秘訣は何なんだろう。お掃除をしっかりしないと、やっぱりダメだよ。みんなで協力して、桜の木の毛虫をどうやって退治できるか調べてみようみたいな話が始まるんで、そういった昭和の良き時代の大先輩の凛々しいかっこいい文化を私たちももっともっと面白がって若い世代に伝えていきたいと思うんですね。それこそが難しく考えない一番温かみのある SDGs だなと思うんですね。だからすごく格好いい浦和すごく素敵な最先端の浦和っていうのがあってもいいんですけども、浦和の強みはそうやって何て言うんでしょう、おじいちゃまおばあちゃまが持っている輝きとか凛々しさとか、文化をもっともっと何て言うんでしょう、私たちがありがたがって、面白がって、子どもたちにもつたいないからしっかり見ておくのよ、こんな格好いいおばあちゃんになるのよ、なぎなたを持って走るのよ、まで言えるようになっていけたらいいんじゃないかなと思います。私なんかこう伝えてほしい文化

の一つとして、そういう何て言うんでしょう、おじいちゃまおばあちゃまが活躍するお祭りとか運動会とか地域の集まりとか商店街のイベントとか、そういうのがもっともっと広がっていったらいいなと思います。うちの子供はちょっと留学していたんですけども、小学校の時の運動会っていうのがどれだけ大事なもののか、身にしみて分かったって言うんですね。運動会でみんなでゴザを引いてお弁当を持ち寄っておじいちゃんおばあちゃんが作ったおいなりさんが夢のようにおいしくて、それをなん 10 個も持ってきてくださって、梨を剥いてみんなで分け分けして、そういう文化とか交わりとか憧れの先輩を地域の中で見つけるっていうようなチャンスを、日本は実はたっぷり持っているので、留学先の運動会というのはスポーツデイとかいってみんな好きなスポーツを楽しみましょう、楽しかったね、はいお終いになっちゃうんですけど、お祭りとかでいつかあんなおじいちゃんになろういつかあんな格好いいおばあちゃんになろうってのをね、見られる日本のいい部分を浦和は本当に持っていると思うので、そこを大事にしていきたいなと思います。あとは浦和のいいところ。やっぱり学校とかスポーツ施設がたくさんあるので、子どもたちがそれを直に見ることができるっていうのがいいと思うんですね。デジタルの時代なので、テレビで見るサッカーの試合っていうのも相当リアルに見ることができるようになってるんですけども、やっぱりサッカーの試合会場に行くと、子どもたちはいろんなものを見ますね。アナウンスが面白いな。あ、この会場を綺麗にキープされてるのはお掃除の人がいるな。売店の人がいるな。救護の人がいるな。分からないことをすぐに教えてくれる案内の人がいるな。そういう感じで、このサッカーの試合を支えている人達はこんなにたくさんいるんだ。この企画をした人がいるな。うまく行くように運営している人がいるな。芝生の手入れをしている人がいるな。応援している人が選手を盛り上げているな。選手を引退した人がこんな目でこのスポーツを見守ってるな。そういう隅々まで子どもたちが見ることができるっていうこのやっぱりチャンスも生かしてもらいたいなと思います。芸術もそうです。芸術、絵を描くとか、彫刻を作る人はすごいんですけども、その価値を見出す人、その価値をみんなに伝える人、それを企画を練って、それをみんなに体感してもらおうようにもっともっと芸術を噛み砕いてくれる人、そういう人が必要でそういう人がいるからこそ、今、いろんな文化やいろんな芸術が自分たちの身近なところでこうね、生きてるんだなっていう風に子どもたちは感じてくれると思うので、そういう本当にホンワカした今こそ昭和に戻るようなそんな繋がりがあってほしいなと思います。私はもう 13 年ぐらい子どもたちを集めて、夫のチームと一緒に子どもたちに体操教室、レスリングを基準とした体操教室っていうので、体を動かすイベントをやっていて、もう 2 万人ぐらいの子どもたちと一緒に頑張ってきたんですけど、やっぱり子どもたちに触る、子どもたちを励ます、子どもたちを抱きしめる、お父さんお母さん以外の大人がこんなに自分に親身になって近づいてくるっていうのを体験した時の子どもたちの反応は素晴らしいんですね。自己肯定感がものすごく上がる。だから浦和に住んでいる人達が、子どもたちの家族として大きなファミリーとして子どもたちを育てるっていうところに携わっていけば、子どもたちの自己肯定感もぐっと上がります。そんなまちで、

また新しい文化とか新しい動き、新しい職業、新しいつながりが広がっていくことを夢見ていますし、意外とその夢は、私達ぐらいの世代が動けば、こう引っ張り寄せることができるんじゃないかと思いました。ちょっと熱くなり過ぎましたね。そんな夢がたくさん詰まっている浦和だなと再確認しております。

市長

向井委員ありがとうございました。大変熱く語っていただきましたけれども、それでは続きまして、前回の懇話会では、続きまして、最近の情報技術の分野での動向や仮想空間、あるいは現実空間の繋がりなどを検討することを重要性についてですね、ご発言をいただきました。まさに、そういう最先端の技術などを研究されております、廣瀬委員からご意見を頂戴したいと思います。

廣瀬委員

先ほど市長さんからパワポのご説明いただきまして、お疲れさまでございました。よくまとめられたなというふうに思います。皆さん方はそう思っておられると思うんだけど、特にその中でモノ・コト・情報、あえて情報を入れていただいているっていうのは、大体こういうまちづくりの話になるとモノ・コトは残るんだけど、情報って最後にフェードアウトしちゃうってのが多いんですけども、最後まで残していただいて感謝しております。重要なことだと思います。ただ、これから大事なことってのは、ちょっと具体的なことをどれだけ書いてあるかっていうとですね、まだちょっと不十分だと思うので、少しこれから恐らく考察されていくんだろうけど、それはどういうことなのかっていうことをこれ以降考えていただくということが重要ななというふうに思います。

今、向井さんから非常に情熱的なお話がありましたけれども、やっぱりその地元の方達っていうのはものすごく個というかな、そのディテールがすごいんですね、やっぱり。僕なんかの鎌倉出身ですから「鎌倉殿の13人」とかっていうのが何かすごく細かくは語れるのですが、やっぱりその分解能が全然違うわけですよ。それはやはり情報の技術を使うことによって、その分解能がいくらでも細かくしていけるっていうのが一つのポイントだろうと思いますし、それで一方では先ほど三木委員の方からもありましたけれども、やっぱりこの個をどうやって見ていくかとか、人一人一人をどうやって見ていくかとか、それは恐らくご商売の方にも関係してくるかなという風に思いますので、全般的にすごく細かい分解能でいろんなことが出てくるだろうということで、ともすれば情報化っていうとですね、没個性みたいなことを考える人がいるんですけど、あれは昭和の話であって、実はその情報という技術の持っているところっていうのは、ものすごい徹底的な個別化というところにありますので、そういうところを一つ使うことが今の時代であればもうできるということだろうと思います。

それと、もう一つですね、坂井先生かな、やっぱりおっしゃっていて、これからどうすんの

よってという話ですよ。保全というものと、開発っていうものが古くていいことっていうのがあるし、思い出っていうのはすごく重要にしなきゃいけないということと、それから、これからやっぱり若い世代っていうのは次のことっていうの考えていかないといけないということで、保全するっていうのは変えるなっていう話だし、その開発っていうのはどんどん変えていこうっていう話だから、冷静に考えると矛盾なんですよ。これどうするかって言うんですけど、これ情報を入れないとね、多分解決しないんじゃないかという風に、もう唯一の手段じゃないかと。例えば先ほど安河内委員の方からポケモン GO みたいな話が出て、ちょっと一瞬びっくりしたんですけども。つまりリアルな空間じゃなくて、そのバーチャルな空間というのを重層的に使っていくことによって、実際に目の前にある浦和市、浦和の駅の前のあのエリアとかですよ。そういうエリアのことを空間的にいうと、もうそれ以上どうしようもないわけですよ。だから昔の風景を保存してしまうと、もう新しいビル一切建てられないとかですよ。そういう話になってしまうわけで、そこを解決できるっていうのが何かバーチャルの役目であったりするわけで、そういうところをちょっと工夫に、つまり我々にとって解空間というのが難しい言い方するってちょっとあれですけど、何か物事を解決する空間とか手段が増えたという形に僕はなるんじゃないかと思うので、そういうところをぜひ使っていけるといいかなというふうに思います。具体的にさっきのポケモン GO の話ではないんですけども、今、僕具体的にですねちょっとやっているのは鎌倉でも浦和でもないんですけど、広島の人たちとちょっと仲良しになってやっているのはですね、広島というまちは、皆さん方は御存じのように過去いろんなことがあったわけでありまして、今あの原子爆弾の投下直前の広島市とそれから直後の広島市と、それから復興されていくその時系列的な広島市というのを、その VR 的なもので再現して、それで実際にその場を遠足しながらこう見て回ろうみたいな、そういうものを実験としてではなくて、例えば博物館的営業としてちょっとやっていこうではないかということにちょっと関わっているんですけども。これは 10 年ぐらい前だとですね、やっぱりこう大学の実験みたいなところだけだったんですが、最近そういうものっていうのがだいぶコンピューターなんかも安くなってきてるので、ちょっと実際実験してみるなんていうのもいいのかなっていう風に思います。ですから情報っていう技術はいろいろなものをつないでいくということもできますので、そういうことを考えていくというのもいいかなということ最後に申し上げておきたいんですけども、この会に僕出させていただいてですね、正直言って最初のうちはさっきも申し上げている鎌倉なんで、昔の街道っていうと、圧倒的に東海道なんです。東海道の方に意識あったんですけども、安河内委員のほうから中山道ってという話が出てきたんですが、中山道ってちょっとどこだろうみたいな感じであんまりよく知らなかったんですけども。考えてみるとですね、中山道って東京大学の前の道って、本郷通りっていうんですが、あれ国道 17 号なんで中山道なんです。今、僕住んでるのは割とその近くなんで、俺、もはや東海道文化じゃなくて中山道文化の上に乗っかってるんだっていうので、考えてみると文京区っていうのはもう中山道なんですよ。ということから見ると、そういう繋がりでもって

いくと何かもう文京区民の興味っていうのはもしかすると浦和の方を向いてるみたいなどころっていうのもありますし、それから、そういうことがきっかけになって、ちょっと色々調べてみるとですね、いろいろ面白い事やってる人っていうのがちょっと見えてきて、例えばですね、自転車で中山道を、日本橋から京都の三条まで走ったって奴がいて、YOUTUBE かなんかに上げててね、それで実際に体験してみたら結構すごいんですよあれ。山奥走って行かなきゃいけないみたいなどころっていうのがあって、どうかなと思ってて。そういうことから見ると、そういう何かこうサイクリングをやっている人たちというのにもすごい何かそういう興味を持っているところがあるというのは、つながりを持っていて。それから JR の鳥羽さんの方から、先ほど仕事としての鉄道論が出ましたけれども、趣味としての鉄道論いいますとですね、鉄道を最初に引こうとした時に、実は東海道本線じゃなくて、中山道の方を最初に、本線として日本の骨格として作ろうという歴史が、鉄ちゃんの周りだと常識になっているんですけども、それでできてたらどうだろうねみたいな話になるとですね、これ、鉄ちゃんが興味を持つような話題になってきて、そういう面からいうと、どんどんどんどんそういう話題っていうのが注意してみると出てくるんですよ。そういう意識持ってみると、結構 YOUTUBE の中にそういうやつってのぼってんですね。そういうの何か上手にあれすると、凄くこう何か色んな今までこう何かボヤッと僕が中山道を見てたものからね、中山道自身も例えば宿場町を一つ再現するという自身もいいんだけど、僕もね色々調べてみると、中山道って平安時代って物凄い昔の中山道と、江戸時代になってちゃんと整備されてからの中山道っていうのと、それから明治になって馬車が出てきた時の中山道と、このあたりちょっとどうだか分かんないですけども、僕は鉄道が出てきてからの中山道的なものっていうのと、それから何か新幹線とかそういうのが出てきた時の中山道っていうのは何か幾つもあるじゃないですか。その中で比較交通学みたいなやつっていうのをやってみると、何かね中山道をキーワードとして色んなこうコンテンツっていうのが展開していくなっていう風に思ったりしててですね。ちょっと何か余計なことをずらずら喋り始めましたけれども、それが坂井先生おっしゃっていたような学習っていうかな学びみたいなものにもなりますし、中山道を歩くって言うと、僕もあんまり歩くの得意な方じゃないですけども、実際所詮なんかこそこそ歩いてみると、面白いなって感じもしますし。何かそんなようなイメージで肩肘張らずにちょっと情報のそういうデバイスを持ちながら、ちょっといろんなことをやっていって、新しい遊びを発見して、それは何か情報の方に学びの方に繋がっていくみたいな、そういう感じのものが少しできてくるといいなという風に、最後なんでもちょっと具体的なことを発言させていただきました。どうもありがとうございました。

市長

どうもありがとうございました。それでは続きまして、前回の懇話会では、世界の都市の潮流が大きく変わっている中で、浦和は新しい潮流のトップランナーになれるというような大変力強い発言をいただきました。隈研吾会長にご意見を伺いたいと思います。よろしくお

願います。

隈会長

このまちづくりビジョン、やっところまですごく整理されてきたなという感じを受けました。僕らはそれぞれ勝手なことを言ってるわけですけども、それをですね、こういう形でビジョンという形に整理されてきて、段々とですね、全体の浦和の構造が見えてきたような気がいたします。このビジョン見て大きくはゾーンという考え方がはっきり出てきましたですよ。ゾーンという考え方と、それから軸、英語でいくとアクシズって言いますか、ゾーンと軸が非常にはっきり見えてきて、それでこう何か筋が通ってきたなという感じがするんですけども。ゾーンと軸というのは、実は近代都市計画の一番基本的なその道具なんですね。都市をどうこれからデザインするかという時にですね。まずゾーンでその機能とか性質をはっきりさせよう。例えば、スポーツのゾーンとか、文化のゾーン、あるいは、住宅のゾーンとかですね。そういういわゆるゾーニング。ゾーニングってスポーツでもよくゾーニングゾーニングといいますけど、ゾーンていうのは基本的な、その近代都市計画が生んだ考え方なんですね。それまでの都市計画っていうのは、あんまりそういうことをしないで、道をどうやろうとか、道の幅をどうしようとかですね、植木をどう植えようとか、めっちゃめっちゃ具体的なんですけど、そうすると何かあんまり都市が、形はあるけど、なんか都市と全体が見えなくなっちゃうんで、ゾーンていうのをちゃんと作ろう。それを貫くのが軸という概念でそれが貫いてるから全体がこうつながって感じられる、一つの都市になる。軸がないとやっぱしね、分かんなくなっちゃうんですねいくらゾーンがあっても。そういうのが見えてきたので、分かりやすい感じがするんですけども。だけどその時のゾーンと軸のですね、やっぱり落とし穴っていうのがあって。それはその機能のですね、曖昧な部分というのがあるわけですよ。例えば文化って言ってもですね、文化なんだけど、ちょっと商業寄りな部分とかね。さっきスポーツなんだけど、商業寄りの、レッズの安藤さんがやっぱし、スポーツのゾーンにもスポーツバーみたいなのがあったり、何かそういう飲めるところがあったり、食べる場所があったりすると、スポーツがより楽しくなるというそういう部分というのは、いわゆるそのゾーンという、機能の整理のちょっと曖昧な、どっちの機能とも言えるし、どこにも属してないとも言えるし、みたいなそういう部分がですね、やっぱり整理しすぎちゃうと抜け落ちちゃって、つい忘れられちゃって、そういうのがない都市ってすごいつまなくなっちゃうんですね。その部分をですね、どうやって、ここに拾い上げていくかっていうのがすごく大事で、いわゆるそのポスト近代都市計画、近代都市計画の後の都市計画ってのは、その部分にみんな力を入れてきて、どっちともつかないところが一番面白いじゃん、って言うような都市計画の考え方がその後出てくるんですね。そういう考え方がこれここに入ってくると、もっと面白くなるな。そういうのはですね。曖昧な中間領域とも言えるし、触媒というふうに言ってもいいと思うんですね。何かものがあった時にですね。それがいろんな化学反応を起こすんですね。例えば、スポーツが1個起こった時に、そのスポ

一つの周りにいろんな化学反応が起きて、スポーツが楽しく感じられる。そういうその触媒ってものにさっきのスポーツバーは属しているかもしれないし、あるいは歴史みたいなものも歴史を僕らにだって面白くしてくれるための触媒に当たるものがいろいろ考えられるかもしれないし、例えば教育なんていうのは、やっぱり歴史を僕らに教えてくれる触媒的なものとか、あるいはまちツアーしてくれる人なんていうのも、そういう触媒の役割を果たして、触媒ってというのは英語でカタリストっていうんですけど、カタリストがその存在すると、反応がどんどん起きて楽しくなってくる。そういうカタリストがですね、どういう風にこの中に埋め込んでいくかというのが、これから大きな課題になってくるかなという風に感じました。世界の都市の潮流の話をしたんですけども、世界の都市でですね、このまちが面白いなって話題になっているところはそういうカタリストがですね、すごく元気なところで、そういうものをですね、これは自主的に生まれてくるものでもあるけれど、同時にやっぱり行政がですね、仕掛けていく部分ってすごく重要なんですね。だから行政は、そういうゾーンの整理と同時に、そこにいろいろな意味での触媒を仕掛けていくような仕掛けの役割、仕掛け人としての役割もこれから期待されていくので、そういうことを行政がちゃんとやってるまちというのは、行くと何かこう、このまち面白いな、という感じがするので、そういうことを浦和はやっていく。そのやってくネタはたくさんあると思うんですね。そのネタはこれほどたくさんあるのも間違いのないっていうのは、向井さんの浦和愛を聞いていてもよく分かるぐらい、これはネタがたくさんあるけど、それをこれからどういう風に計画に生かしていくか。こういう風にまちづくりの計画ってした時にですね。計画して、逆にあれちょっと前よりも整理されすぎちゃってつまなくなってきたっていう計画と、それから、あれ、やっぱり計画した甲斐があって、全然違うものができたな、っていう風なふた道が分かれるので、是非そのふた道の、あれ想像以上に面白かったなという風なところにそっちに持って行っていただけるかどうかというのがこれからの大事なところで、僕らこのメンバーもこれからも浦和をいろんな形でお手伝いして行って、そっちの方向に浦和が行って世界のまちの中でのリーダー的なポジションを発信していったらいいなという風に思っておりますので、期待しております。

市長

どうもありがとうございます。大変私達にとっても刺激になるご発言ありがとうございます。今ですね、各委員からご意見を伺ったところなんですけども、それぞれ委員の皆様から別の委員の皆様には何かこういう発言があったけど、これはどうなんだろうねとかですね、ご質問やら、あるいは意見交換をしたいということがあれば伺いたいと思いますけども、いかがでしょうか。はい、向井委員。

向井委員

今、皆さんのお話を伺っていて、私の浦和愛がちょっと濃すぎるぞって思ったんですけど、

まあ濃い人もいるし、ちゃんと見渡して切々と浦和への思いを語る人も、いろんな温度の人がいるとは思うんですけども、この浦和の魅力っていうのをどんどん打ち出していく中で、やっぱり新しく浦和に入ってくる人っていうのも沢山いて欲しい。私なんか、ガラガラ、浦和はすごいのもよって言うと、わっ、このおばちゃん怖みみたいな感じで、怖気づく方もいる可能性がありますけれども、この浦和という魅力的なまちを新しい人を引き入れるみたいな、引力というか、行ってみたいとか、あそこにちょっと座り心地が良さそうなベンチがあるとか、そういった何か初めて来る人、ここに移り住もうかなと思いつつ、来る人への何て言うんでしょう、こうウェルカムみたいな空気づくりについて、例えば隈先生は、どんなイメージで新しい人をこう呼び込むというようなイメージをなさっているかっていうのを伺いたいなと思いました。

隈会長

新しい人はですね、魅力があればね、で、僕は新しい人、これだけの魅力があってコンテンツがあるまちなので、もう実は浦和に引っ越したい人っていうのも凄いわけですよ。だから浦和のマンションなんてもう凄い、だから僕はね、そういうマグネットとしての力はずでにあるんだけど、そのどういう人に来て欲しいかという、ある種のそこで選別するようなそのまち、そういう風なまちが、逆に言えば、長期的に見ればそういう選別したような人が来ると、更に魅力が増えていって、更に次の人がそれに繋がってくるので、長期的に見れば、絶対ある種の選別が働くようなまちがいいと思うんですね。来た方が今度はいつまでもよそ者ではなくて、やっぱりすぐ浦和の人になるわけですよ。すぐ浦和の人になって、もうまちの逆に来てすぐの人って、活動がアクティブなんですよね。それはどこでもそうですけども、今地方でも結構いろんな全国で人口流入が多い、こんな田舎で人口増えてんだっていうまちあるんですけど、そこで入ってきた人っていうのは、やっぱり、入ってきたてで、すぐアクティブになるわけですよ。一番中心になってまちづくり活動してくれるわけだから、やっぱりそういう人たちを排除しない、いつまでもよそ者じゃなくて、やっぱりすぐに浦和の人として受け入れて、その人たちが頑張ってくれる、そういうふうな流れが生まれてくるような仕掛けというのはですね、いろんな活動を通じてつくれると思いますんで、それを期待したいですね。

市長

ありがとうございました。色々もう少しお伺いしたいところではありますが、時間の関係もございますので、それでは次のテーマでございます、まちの将来像の実現に向けてについてですね、まとめたものを私の方からまた説明をさせていただきたいと思います。それでは、テーマ2のまちの将来像の実現に向けて、ご説明をしたいと思います。これはビジョン策定後における、まちづくりの具体的な進め方などについて考え方をまとめたものでございます。

まず 1 つ目は、人中心の都市デザインの実現でございます。まちづくりの展開に基づくアクションプランを進めていく場合に、浦和が今後も持続可能な都市であり続けるためにも、浦和のまちが大切にしてきた人を中心とした都市デザインが必要であると考えています。2 つ目は、公民連携のまちづくりでございます。浦和のまちが更に成長発展をしていく為に、浦和に関わる多くの人々がまちづくりに積極的に参画できる場や機会の創出が必要だと考えています。これは先ほど、隈会長からお話をいただいた内容と、まさに同じものではないかと思えます。それらを進めていく為に、公民連携によるまちづくりとして、浦和の人や企業等がこのビジョンを共有して同じ目標や、方向性を持って、共にまちづくりに取り組んでいく為にエリアプラットフォームの構築を目指していきたくと考えています。そして、この公民連携のまちづくりの体制によって、アクションやこのプロジェクトを検討していくことが重要であるというふうに考えております。これまでの（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョンの検討の過程では、この有識者懇話会をはじめ浦和のまちの活動家の方々の意見交換会であるとか、あるいは市民の皆さんのワークショップなど様々な場で、様々な方に参加をいただきながら、このビジョンを作り上げてまいりました。各分野のトップランナーの皆様にご参加をいただきました、この有識者懇話会の発信力によって、このビジョンの検討に多くの市民の皆様のご参加をいただくことが出来ました。このように、市民の皆様がまちづくりに関心を持っていただき、様々な形で参加していただくことが今後のエリアプラットフォーム構築に向けた、第一歩であると考えております。ビジョン策定後は、このビジョンをこれまで参加して下さった皆様、そしてさらに多くの皆様と共有しながら、まちの将来像の実現に向けたまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョンの説明は、これが全てということになります。昨年度から有識者懇話会を 4 回にわたり開催をさせていただいてまいりましたが、全体を通して最後に皆様からご意見、またご感想をいただければと思います。まず最初に、坂井委員からコメントをお預かりしておりますので、スクリーンをご覧くださいと思います。よろしく願いいたします。

坂井委員

先日、個人のハピネス、幸せは、コミュニティの深さとコミュニティの数の掛け算であるという講演を聞きまして、大変強い感銘を受けました。個人がいかにか、他人と多く、深く繋がれるかということが、個々人の幸せに直結するということだと思います。一方で、現代を理解するキーワードといたしまして、分断という言葉があるかと思いますが、大変残念なことではあります。世界レベルでも分断は広がっております。また、個人レベルでもパーソナライズ化されたシステムが、都会の中の孤独というような状況を引き起こしていることが、以前より指摘をされております。ここ 2 年半余りの間で、新型コロナウイルス感染症の影響でステイホームということも言われて、個々人がさらに分断が進んだようにも思っております。今後、我々のハピネスを増やす為には、解決の方法として、やはりコミュニティの

再生ということが極めて大切だと思っております。今後、公民連携、市民協働のまちづくりを進めていくと、ということが書かれておられますが、浦和の持つ多様性やブランド力を生かして、ハピネスを増やしていく。その為には、持続可能なコミュニティの再生が大切だと改めて思います。その為には、コミュニティを支援する為のハード、そしてソフト面での充実が大切だと思います。今後、アクションプランをつくっていくところでは、この観点をぜひ反映させていただければと思っております。

さて最後に、今回の懇話会の感想をということでございました。今回の懇話会で文教都市浦和の歴史を見つめ直して、私自身、浦和のまちのパワーというものを改めて感じる機会となりました。埼玉大学も浦和駅周辺ではありませんが、さいたま市にある大学として浦和のまちづくりに協力、貢献させていただきたいと思っております。ぜひ、今後とも埼玉大学をよろしくお願いを申し上げます。最後は宣伝になって申し訳ございません。

市長

ありがとうございました。坂井委員からのご意見でございました。それでは、次に鳥羽委員よりご意見を頂戴したいと思います。お願いいたします。

鳥羽委員

まとめとしてですね、近年感じることは、日本の全体がですね、特に駅前がですね、全くその風景とか景色っていうのが均一化っていうのか、大抵同じなんですね。コンビニがあったりとか、その、牛丼屋があったりとか、みんなどこも同じっていう感じがちょっとしております。前段でもお話ししたんですが、駅周辺のまちづくりには、その空間の充実というのがとても必要だなと思っております。何かを建てるとかっていうのもすごくいいんだけど、その、空間があるというのがですね、とても必要かなと、望ましいのかなと感じております。そしてですね、人を中心っていうお話が、先ほどから出ておるんですけど、何よりもですね、ゆとりある暮らし、または防災であったり、防犯の意識っていうのは、やっぱりその地域の皆さんが自分のこととしてやっぱり捉えるっていうことから始まるのかなと、そこが大切かなと感じております。あの向井委員も先ほど話したようにですね、浦和への熱い愛から、まちづくりっていうのが始まるんじゃないかなと感じました。以上でございます。

市長

はい、ありがとうございました。鳥羽委員からのご意見でした。次に、三木委員からご意見を頂戴したいと思います。お願いいたします。

三木委員

ありがとうございます。皆さん、お疲れ様でございました。先ほど向井委員が隈会長にご質問されていた、どういう人に来て欲しいかというお話があったんですが、まさに私が最初に

させていただいたお話ってすごく気になっているところはそこでございます。今の伊勢丹浦和店の方にもですね、色んなところから浦和に引っ越して来られて、その引っ越したマンションの中のアートですとか、生活空間というのをどういう風に彩りたいかっていうので、お買い物来られる方、非常に増えています。そういったニーズが増えているので急遽ですね、最近、コンテンポラリーアートのショップを作ってますね、そういったお客様のニーズにお応えをするようにさせていただいています。まさに浦和っていうのはですね、そういうコンテンポラリーアートのようなものにも興味があって、文教都市としての教育環境ですとか、住みやすさみたいなのに、非常にそういったものを生活の中の上位に価値観として位置づけている方が集うまちであるなど。そういった方々に魅力を感じていただけるまちでずっとあり続けなきゃいけない。でそうすると、今回のビジョンの中の各ゾーンの展開の中の拠点というのがですね、そういった方々に向けて、一番の売りになる拠点というのは何か、その中の非常に重要なピースとして、市役所の跡地もそうでしょうし、もう一つはやはり駅前というところの結節点になる駅前というのがどうあるべきか。こういったことが非常に重要になってくるな、というふうに思います。先ほどちょっと控室で大宮の駅の再開発のビルのお話を聞いたんですけども、なかなかテナントさんが埋まってこない、で入ったテナントさんも、やはり東京で同じようなどこにもあるような商業施設のテナントさんになってしまうと、こういったお話も聞いた中でですね、浦和の独自性のある拠点というのをどうやっていくか、ということについては、官民連携でこれから皆さんと一緒にお話をさせていただいて、我々も大型商業施設としてそこに貢献をさせていただきたいな、というふうに思っております。ありがとうございます。以上でございます。

市長

はいありがとうございます。それでは、次に市川委員にまたご意見を頂戴したいと思います。

市川委員

それでは総括とさせていただきます。浦和エリアは今後しばらくマンション住宅建設が続く、人口増加も続くと予想されています。購買層は当然ながら概ね30代から40代が中心ですので、ビジョンで想定する30年後は当然60代70代になります。浦和に限ったことではないのですが、まちの新陳代謝の促進を考える時がいずれ来るのではないかなと思います。また、2年前のコロナ禍の非常事態宣言下で、まちから人の姿が消え人と人のつながり、人と地域や社会のつながりが一時的にせよ失われたことがありました。この時、まちもその機能を十分には果たせなくなっていったようにも思います。テレワーク中心になり、東京の近くに住む必要がなくなった。宅配で何でも届くから、スーパーや商店街で買い物をしなくても困らない。自宅で料理すれば節約にもなるし、外食もしなくなった。人々の生活が大きく変わった時でした。まちとは何なのか、どういうまちであるべきか。そんな問いが投げか

けられたようにも思います。先週 11 月 6 日に、第 8 波の入り口と言われる中でしたが、3 年ぶりに浦和区民まつりが開催されました。先ほどスクリーンで鳥羽委員が紹介してくれた所ですね。この日、多くの住民が地域や行政とのつながり、接点を持ち、特に小さなお子さんを持つファミリー層に多くの笑顔が見られたことが印象的でした。私はこの時、このまちが役割を果たしたのだと思いました。そのまちに何があるか、まちの環境や特性はそこで生まれ育ち、生活する人の性格や社会性にも影響を及ぼすものと思います。大げさに言えば、まちづくりは人づくりという側面もあるのではないのでしょうか。私の総括は以上です。

市長

ありがとうございます。それでは、次に安河内委員にご意見を頂戴したいと思います。お願いいたします。

安河内委員

最後にちょっとお話をするのは、先月友人を訪ねて東北のまちを訪れたんですけれども、その時には季節も大変良くて、まち中でいろいろな催し物が行われていたんですが、残念なのは十分な周知がなされていなかったなということなんです。たまたままち中を友人と散歩していき合わせて、あ、今日はこんなことをやっていたんだと知るようなことが幾つかありまして、大変残念だった。私達の年代は、やはりインターネットではなくて紙媒体と言うんでしょうか。やはりそういうものがこう駅周辺とか、いわゆるポスターみたいなものが公共の場所で予告されていたり、宣伝といったものがあればもっともっとうるさく知っていったのになんていうのが一つ残念だった。特に女性高齢者っていうのは、画面で色々移り変わるっていうよりも一つのじっと見られる紙でのそういったものがそれなりに必要なんだなっていうことを感じたことでした。先ほど鳥羽委員がおっしゃった、日本各地の駅や空港が全部同じであると。で、私も大体日本全国行かせていただいて、駅を降りるたびにどこも同じなんですよね。やっぱり、この画一的なものが凄く悲しいというか無機質というか面白くなくて、何かそこにプラス人間的なもの、ここに来たらちょっと何か違ったというか、建物だけでなく雰囲気だったりそういうものが演出されていたらいいだろうなと思います。で、おっしゃったその空間がっていうのが、日本画もそうなんです。いかに空間をうまく使っているかがいいとか、日本人には心地よい絵だったりするので、そういうところには共通性もあるし、日本の感覚はそういうものを求めている部分があるのではないかなと思います。以上のことなんですけれども、改めて浦和の立地、そして歴史を持っていることっていうのが認識されましたし、大変いい経験をさせていただきました。流入する人たちへのケアっていうのが一番大切。そういう人達がまた新しいものを生み出していくんだらうなっていう言葉もなるほどと思いました。これからも浦和がいいまちになっていくことを心から祈っております。

市長

ありがとうございます。それではですね、次に安藤委員からもコメントをお預かりしておりますので、スクリーンをご覧いただきたいと思います。

安藤委員

やはり浦和は、例えばレッズの試合がある時は自転車に乗ってる人がみんなユニフォームを着てたりとか、コンビニの中でもみんなユニフォームを着た人がいたりとか、家にその試合の日はレッズの旗が掲げられたりとかで、あ、今日試合なんだなっていうのがすごいわかるぐらいサッカーが溢れてるまちで、本当に海外のようなそういった雰囲気が出せるまちっていうのは浦和ならではのかなと思ってます。浦和レッズレディースもこれからもっともっと地域の人達ともっと身近になって、日本一、世界を目指せるチームにみなさんと一緒にしていきたいなと思ってます。エリアプラットフォームを作っていくにあたって、レッズレディースももっともっと子供たちのサッカー教室とか、いろいろな方たちとのサッカーを通して関わっていく活動を増やしていきたいなと考えてます。海外では、サッカー選手が子供たちにサッカー教室をするのはもちろんなんですけど、高齢者施設に行ったりとか障害者施設に行ったりして、いろんな方たちとコミュニケーションを取っていくっていう活動を多くやってました。これからエリアプラットフォームを通じて、浦和のまちが、いろんな方々がつながって元気になっていくといいなと思います。今回、まちづくりビジョンができることがゴールではなくて、これから浦和のまちがもっと元気になっていくスタートだと思っています。みんなで頑張っていきましょう。

市長

ありがとうございます。それではですね、次に廣瀬委員からご意見を頂戴したいと思います。お願いいたします。

廣瀬委員

はい、こういう会に参加させていただきましてどうもありがとうございます。何でもそうだと思うんですけども、非常にシンプルで自分の住んでるところが楽しいというかですね、みんな集まってわいわいできるといいなっていう自立的にあるコミュニティができるってことが、もう本当にその一言に尽きるんだろうと僕も思います。情報の先生ですけど、別にそういうことはあんまり考えずに集まっていい良質なコミュニティができるってことがすごく重要なんだろうなというふうに思っています。それで、先ほどのその熱い熱気ではないですけども、熱気もそうだし、いろいろ細かいコンテンツっていうのもたくさんあるし、浦和のお話を伺っているとですね、平均値からいうと、日本国内の中でも相当リテラシーの高い方達というのが集まっているコミュニティだから、そういう意味ではこういうの自律分散といいますけれども、自分たちで走っていけるというだけの臨界質量をもう明らかに

超えているので、そういう意味では市長さんが楽だかというかですね、何かいい感じでいくんじゃないかという感じに思っております。それと、将来ということにやっぱり一番心配なことだろうと思いますけれども、これは我々の分野ではですね、よく言われるのが、子どもは未来であるというふうに言われて、その子どもは未来というのはですね、すごく単純なことで、今子どもたちがやっていることを見ると未来の姿というのは見えてくるよということなんですよね。ですから、その一つ非常に重要なことっていうのは、今の子どもに好かれている何物かというのはやっぱりそれはバカにしちゃいけないで、ある意味ではすごく重要視して子どもとか若い人たちに好かれるようなまちづくりをするっていうのはそういうことだろうと思います。そういうものの中で、デジタルのものっていうのは結構なんか好かれてたりなんかするわけなので、そういうところでちょっと上手に新しい価値基準というものもあるだろうと思いますし、そういうところを考えていくと、浦和の未来っていうのは明るいなというふうに思いました。どうもありがとうございました。

市長

はい、どうもありがとうございます。それでは続きまして、大変熱いご意見をいろいろ頂戴してまいりました向井委員からご意見をいただきたいと思っております。

向井委員

はい、後から後から浦和にこんなことあんなことがあったらいいんじゃないかって、本当にどんどん思いついてしまうという感じ、自分でも驚いているんですが。いろんな分野のスペシャリストの先生方からの意見が集まるというこの場は本当に楽しかったです。それで、私の愛がこうほとぼしってしまったんですけど、いろんな方向から浦和のために脳漿しぼるじゃないですけども、アイデアが集まるっていうこういう場所こそが本当に浦和の未来を映していて、とても素敵だなと思えました。浦和には何て言うんでしょう、私も子どもっていうのがキーワードになるんじゃないかなと思っています。浦和で育った子どもが、ああ、ここで育ったことで自分は幸せな人生っていうのをこう作り上げることができたんだっていうのを最終的に思ってくれるといいなと本当に思います。文教都市として、やっぱりついしっかり勉強してしっかりいい高校大学、埼玉大学に入ってっていう風についてしまったり、親たちが子どもを競争させるような風を吹かせてしまったりするかもしれないんですけども、浦和で育ったことによって文教都市として色んなスポーツを見たり、色んな大先輩を見たり、色んな学校を見学したりして、頭いい人も素敵、勉強得意じゃなくても運動得意じゃなくても、じゃあ僕は応援するスペシャリストになりたいとか見つけるのは得意だよとか、やっぱり色んなことを子ども達に間近で見させてその中で自分が活かせる場所っていうのを、子どものペースで自信を持って見つけていけるような、そういうまちになると浦和はずっと長持ちする、こう暖かい、住みたい、みんなの憧れのまちで居続けるんだろうなと思います。坂井先生がおっしゃった、そのコロナによる分断っていうことがあ

ったと思うんですけど、その分断の中で一番寂しい思いをしてしまっているのが、きっと無邪気に遊べなかった子ども達、若者達だと思うので、そこにそれぞれ隈先生がおっしゃるゾーンや軸をつくって、そのゾーンや軸の周りで私たちみたいに浦和愛に溢れている人間たちが、触媒となってこっちとこっちをくっつけるよ、みたいな感じで触媒となってこう私達が一步踏み出すことで、分断の後だからこそ触媒になりたい人がたくさんいるっていう大チャンスの中でこういったいろんな方面の人の意見を聞けて、その中で愛を思う存分語れてとてもいい勉強になりましたし、浦和の未来が楽しみだなと心から思っています。もう、呼んでいただいてありがとうございました。

市長

ありがとうございました。それでは、最後に全体を総括して隈会長からお願いしたいと思います。

隈会長

はいまあですね、この長いプロセスの全体総括するってそんな簡単ではないんですけども、市長が先ほど説明した実践に向けてというところで、いろんなメンバーを含めたプラットフォームを作るというのが、やはり私は非常に重要じゃないかなというふうに思いました。もちろん、行政というのはこの中でも重要な役割を果たすんですけど、ここに住民とか企業、宗教者、地権者、大学、まちづくり会社とかいろいろ入ってますよね。そういうですね、いろいろなメンバーがいろいろな年齢層、さっき子どもの話も出ましたが子どもももちろんですし、これから少子高齢化で高齢者を含めていろんな年代層の人がですね、やっぱり含めて参加するまちづくりというのが、これからの鍵になると思います。そういうものですね、浦和にとっても似合っているような気がするんですよ。ぜひそういうプラットフォームづくり、それができるとですね、自動的にそのプラットフォームの中の人達の間で、それぞれ触媒作用も化学反応もいろんなことが起こってまちが楽しいものになってくるので、まずは今ビジョンができた、次にプラットフォームができて、実践ってこういう感じで進んでいくと素晴らしい浦和ができるんじゃないかなというふうに思っております。

市長

ありがとうございました。全体を隈会長に総括をしていただきましたけども、隈会長からも先ほど触媒になるそういった仕組み仕掛けが必要だというようなお話がありましたけれども、ぜひこのエリアプラットフォームはそんな仕掛けの一つになったら、なってほしいなというそういった願いもあるというふうに思っています。隈会長をはじめですね、そして委員の皆さんからこれまでの集大成としてのご意見、また、熱い思いなどを頂戴をしまして、本当にありがとうございました。さて、この懇話会は浦和の魅力をさらに磨き上げ、2050年の将来においても市民から選ばれるまちであるために、(仮称)浦和駅周辺まちづくりビジ

ョンを取りまとめるために、各分野のトップランナーの皆様や地域を代表する皆様に参加をお願いして開催をいたしました。懇話会を始めるにあたりまして、私から委員の皆様に国内外に誇れ、市民が安心して住み続けられる、2050年の浦和のまちの将来像を描きたいという旨をお伝えをしまして、皆様から貴重なアイデアや提案を頂戴して参りました。これまで頂いて参りましたご意見やご提案、また、皆様の熱い熱い思いなどしっかりと受け止めてまして、(仮称)浦和駅周辺まちづくりビジョンの成案の策定を鋭意進めて参りたいと考えております。この懇話会は、ビジョンの策定をもって目的を達成することから、今年度末をもって終了することとなりますが、浦和のまちづくりはこのビジョンを市民の皆様、事業者の皆様と共有することで、新たなまちづくりのスタートが切れるものと考えております。関係する皆様と共に描きました、個性と魅力に磨きをかけながらですね、2050年に世界に輝く浦和を目指した、そうした将来像の実現に向けまして、人を中心のヒューマンスケールな成熟したまちとして、日本のまた、世界のまちのトップランナーになるようにまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。ご参会をいただきました委員の皆様、本当にありがとうございました。また、会場にお越しの皆様、長時間に渡ってご参加をいただきまして、ありがとうございました。また、リモートなどで見ていただいている方につきましても、改めて御礼を申し上げたいと思います。以上で、第4回(仮称)浦和駅周辺まちづくりビジョン有識者懇話会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。

司会

各委員の皆様、清水市長、本当にありがとうございました。それぞれ浦和愛が溢れる素晴らしい時間でした。ありがとうございました。

以上をもちまして、第4回(仮称)浦和駅周辺まちづくりビジョン有識者懇話会をこれにて終了いたします。